初心者向け 完全ガイド / Azure AI Foundry（現 Microsoft Foundry）

Azure AI Foundry

入門ガイド

選ぶ → 作る → 動かす → 監視する を、1つの場所で。

01 目次とこのガイドについて

「AI開発を始めたいが、モデル選定からデプロイ・監視まで自社で全部やるのは現実的ではない」——Azure環境でのAI活用を考える多くの企業が直面する課題です。本ガイドは、Azure AI Foundry の概念・構成・使い方・統合・料金・導入ポイントを、初学者にもわかりやすく体系的にまとめました。

> **最初のポイント** Azure AI Foundry は 2026年現在「Microsoft Foundry」へ改称（Azure AI Studio → Azure AI Foundry → Microsoft Foundry）。本ガイドでは広く使われる「Azure AI Foundry」を主軸に、現行名称も併記します。

02	Azure AI Foundry とは？	P.03
03	誕生背景と Azure OpenAI との違い	P.04
04	構成要素（モデル・エージェント・ツール）	P.05
05	使い方（基本操作と流れ）	P.06
06	統合・Azure連携 と 料金体系	P.07
07	導入のポイントとユースケース	P.08

02 Azure AI Foundry とは？

Azure AI Foundry とは、**Microsoftが提供するエンタープライズ向けAI開発の統合プラットフォーム**です。エージェント・モデル・ツールを1つのリソースにまとめ、開発者がインフラ管理ではなく「アプリケーションの構築」そのものに集中できるよう設計されています。

本質は、次の4ステップを1つの環境で完結できる点にあります。

ステップ	できること
① 選ぶ	10,000を超えるモデルカタログから用途に合うモデルを選定
② 作る	プロンプト・エージェント・ワークフローを構築
③ 動かす	本番へデプロイし、アプリや Microsoft 365 へ発行
④ 監視する	パフォーマンス・ガバナンスをリアルタイムに観測

従来は、モデルの調達・実行環境の準備・データ連携・セキュリティ設定・監視基盤の構築を個別に組み合わせる必要がありました。Azure AI Foundry は、これらをまとめて扱える「土台」を提供します。

> **落とし穴** 「単なるチャットツール」と捉えると価値を見誤ります。本質は“AI開発のライフサイクル全体を扱う基盤”です。

03 誕生背景と Azure OpenAI との違い

誕生背景（Copilot時代）

生成AIとAIエージェントの普及により、企業の関心は「単発のチャット応答」から**業務に組み込んで継続的に動くAI**へと移りました。複数モデルを使い分け、社内データと連携し、ガバナンスを効かせながら運用する——この一連の要求に応える基盤として登場したのが Azure AI Foundry です。

Azure OpenAI Service との違い

項目	Azure OpenAI Service	Azure AI Foundry
位置づけ	OpenAI系モデルのAPI提供（モデル中心）	エージェント・モデル・ツールを束ねる統合基盤
主な役割	GPT系モデルを安全に呼び出す	モデル選定〜構築〜運用〜監視まで一気通貫
関係性	—	Azure OpenAI をその一部として内包する

イメージ Azure OpenAI は「エンジン」、Azure AI Foundry は「工場（Foundry＝鋳造所）」。GPTを呼ぶだけなら Azure OpenAI 単体でも可能ですが、エージェントや複数モデルを組み合わせて本格的なAIアプリを作るなら Foundry が有力な選択肢になります。

04 構成要素（モデル・エージェント・ツール）

理解の鍵は、**「モデル」「エージェント」「ツール」という3つの主要要素**です。この3層が連携してAIアプリが動きます。

モデル層（モデルカタログ）

AIの“頭脳”。**10,000を超えるモデル**にアクセスでき、提供元は
Microsoft・OpenAI・Anthropic・Mistral・xAI・Meta・DeepSeek・Hugging Face
など多岐にわたります。自前のGPUを用意せずに用途へ合わせてモデルを選び、切り替えられます。

エージェント層

モデルを使って自律的にタスクを実行する仕組み。Web検索・コード実行・データ照会・API呼び出しなどの「行動」を取れます。Agent Service
が構築・デプロイ・スケーリングを一元管理するフルマネージド基盤を提供します。

ツール連携

エージェントの能力を拡張する“道具”。ツールカタログ経由で**1,400を超えるツール**を接続でき、対話間でコンテキストを保持する「メモリ」、引用に基づく回答を生成する知識統合（Foundry IQ）も利用できます。

> **落とし穴** 一部の層だけを見て設計すると破綻しがちです。最初からモデル・エージェント・ツールの“連携”を前提に設計しましょう。

05 使い方（基本操作と流れ）

大きく「初期設定 → エージェント作成 → テスト〜本番」の3ステップです。

初期設定（サインアップ〜プロジェクト作成）

- Azureアカウントを取得し、Foundryポータルにアクセス
- プロジェクトを作成（1つのFoundryリソースの下に「プロジェクト」を作り、その単位で開発）
- 必要に応じて VS Code拡張（Microsoft Foundry for VS Code）で使い慣れた環境から開発

エージェント作成

- 「エージェントの作成」をクリックし、名前を設定してすぐ用意
- 使用するモデルと手順（指示）を設定
- 「ツール」タブから Azure AI Search やブラウザー操作などを組み込み能力を拡張

テスト〜本番

- プレイグラウンドでプロンプト・エージェントの挙動をテスト
- 評価機能でパフォーマンスや品質を確認
- 問題なければ本番デプロイし、アプリや Microsoft 365 などへ発行

> **落とし穴**　「PoC（試作）止まり」になりがち。最初から本番運用・監視まで見据え、小さく試して段階的に拡張するのがおすすめです。

06 統合・Azure連携 と 料金体系

Azureサービス・データ基盤との連携

- **Azure AI Search**：社内データを検索し、RAG（検索拡張生成）の基盤に
- **Azure AI Content Safety**：有害コンテンツの検出・フィルタリング
- **GitHub / VS Code / Copilot Studio**：使い慣れた環境・ローコードで構築
- **MCP / A2A**：エージェント同士・外部ツールとの相互運用を標準方式で実現
- **Microsoft Fabric / 365**：企業データに接続し、Teams・BizChat へ発行して業務現場で活用

料金体系（トークンベースの従量課金）

基本は**使った分だけ支払う従量課金（pay-as-you-go）**。多くのケースで料金は処理したトークン量に応じて発生し、GPUなどのインフラを自前で用意する必要がない点が初期コストを抑える鍵です。

- 用途に合ったモデルを選ぶ（軽い処理は軽量モデルへ）
- 小さく始める（無料アカウント・初回クレジットで低コスト検証）
- トークン量を意識する（プロンプト設計・コンテキスト量を最適化）

> **料金の注意** 料金は提供形態・モデル・地域・時期で変動します。実際の費用は必ず Azure 公式の料金ページと料金計算ツールで最新値をご確認ください。

07 導入のポイントとユースケース

代表的なユースケース

- 社内ナレッジ検索・問い合わせ対応（RAGで根拠付き回答）
- 業務レポート・ドキュメント作成支援（ドラフト自動生成で工数削減）
- 反復作業の自動化（情報収集・データ入力をエージェントが代行）
- マルチエージェント連携（役割分担で承認フローを含む業務を自動化）

導入を成功させる4つのポイント

- 小さく始めて段階的に拡張（まずノーコードでプロトタイプ）
- 用途に応じた構成選択（軽量・ローコード → 必要に応じ高度な構成へ）
- ガバナンスを最初から設計（RBAC・ネットワーク・ポリシーを早期に）
- 既存資産との連携を前提に（GitHub・VS Code・Microsoft 365 とつなぐ）

次のアクション
導入検討や自社業務への組み込みのご相談を承っています。本ガイドの内容に沿って、御社のユースケースに合わせた進め方をご提案します。

ConnectAI株式会社 | AI導入・活用のご相談はお気軽にどうぞ